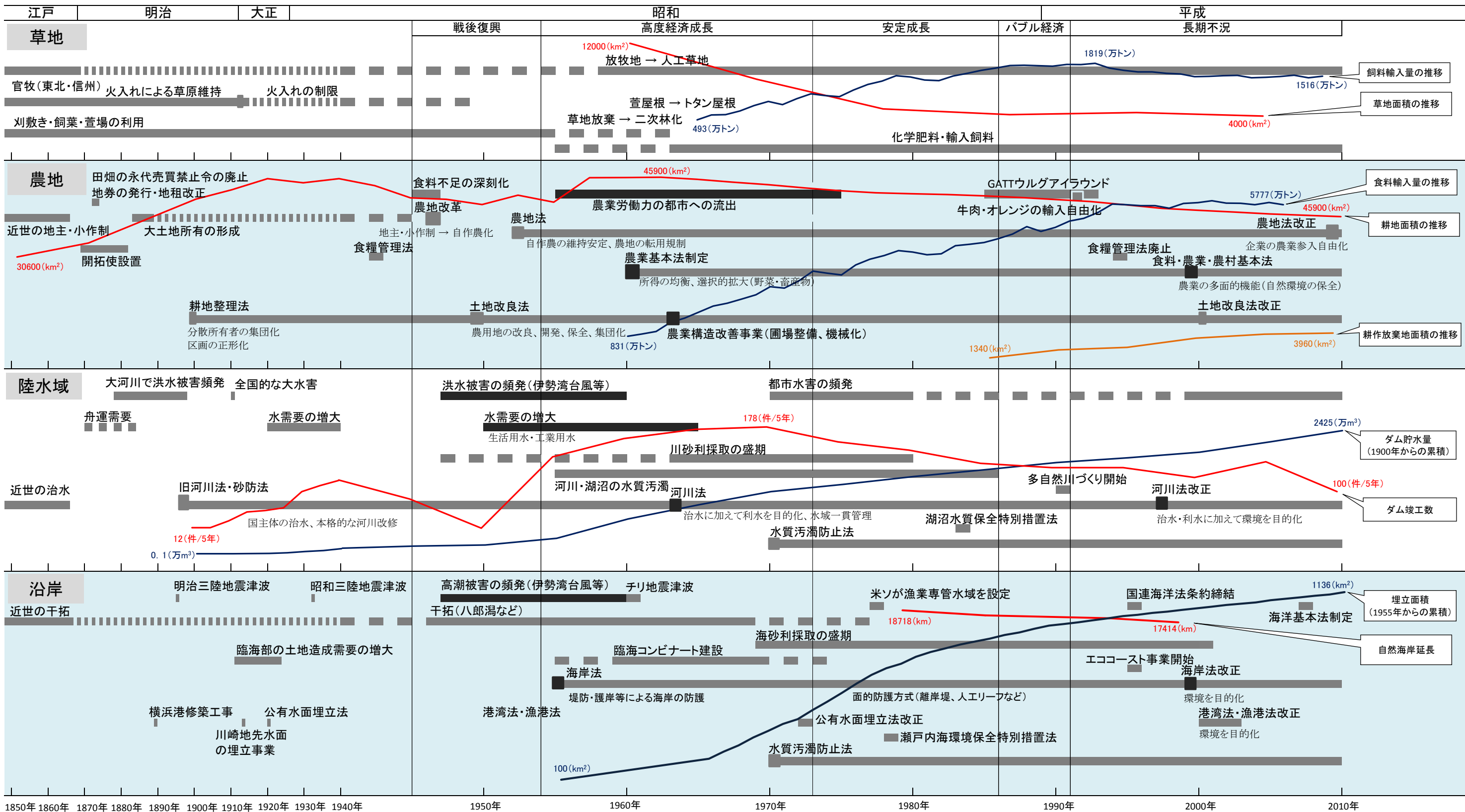


# 1850年以降の国土利用の経緯(草地、農地、陸水域、沿岸)

<草地>戦後には、燃料・飼料などの供給の場としての機能を失い、利用されなくなった。草地面積は大幅に減少。  
 <農地>高度経済成長期に農業労働力が都市に流出し、産業としての効率化が図られたが、農業就業者の減少、貿易自由化が進展した。農地面積は大幅に減少し、耕作放棄地が増加している。  
 <陸水域>戦後の洪水被害と高度経済成長期の水需要の増大を受けて、治水に加えて利水を目的とした河川管理が進められた。また、都市部の水害や水質汚濁への対応が行われてきた。  
 <沿岸>戦後の高潮被害を受けて海岸の防護が進められた。高度経済成長期には沿岸部の土地利用の需要が高まり、埋立や干拓が進められた。



主な引用・参考文献  
 <全般> 湯本貴和編(2011)「シリーズ日本列島の三万五千年—人と自然の環境史。文一総合出版、東京。310p。(総合地球環境学研究所プロジェクト「日本列島の間人—自然相互関係の歴史的・文化的検討」(リーダー:湯本貴和)の成果より)  
 <データ> 国土交通省。国土数値情報。ダムデータ。/環境庁。第4回自然環境保全基礎調査海岸調査。/経済産業省。骨材需給表。/国土地理院。国土面積調。/総務省。国勢調査。/総務省。日本の長期統計系列/内閣府。国民経済計算。/農林水産省。耕地及び作付面積統計。/農林水産省。食料需給表。/農林水産省。飼料需給表。/農林水産省。林業センサス累年統計書。/農林水産省。木材需給表。  
 <その他>伊藤滋監修。日本経済研究所。日本開発銀行都市研究会編(1991)都市開発その理論と実際。第1編法制度。ぎょうせい。東京。/河川審議会答申。21世紀の社会を展望した今後の河川整備の基本的方向について(平成8年6月)。/北出俊昭(2001)日本農政の50年。日本経済評論社。東京。/建設行政研究会編(1985)建設(I)現代行政全集16。ぎょうせい。東京。/国土行政研究会編(1985)国土現代行政全集18。ぎょうせい。東京。/国土庁土地局土地情報課監修。土地総合研究所編(2000)日本の土地その歴史と現状。ぎょうせい。東京。/国立国会図書館。国会会議録検索システム。/社団法人日本港湾協会編(2007)新版日本港湾史。成山堂書店。東京。/農林水産行政研究会編(1983)農林水産(I)現代行政全集12。ぎょうせい。東京。/農林水産行政研究会編(1983)農林水産(II)現代行政全集13。ぎょうせい。東京。